

コースコード：RH-JB248

税抜価格：220,000円

日数：5日間

前提条件

- ・ Microsoft Windows、UNIX、またはLinuxオペレーティングシステムのシステム管理の基本的な経験
- ・ ハードウェアとネットワークの知識 ・ Java™、スクリプト、またはJBoss Developer Studioの事前知識は不要です

受講対象者

Red Hat JBoss を初めて使用するシステム管理者または Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 5 を使用した経験のあるシステム管理者

コース概要

このコースでは、JBoss Enterprise Application Platform 6 のインストールと設定についてのベストプラクティスを学びます。システム管理者が実務で必要とする、JBoss Enterprise Application Platform上のアプリケーションの管理や効果的な展開についての知識を、ハンズオンラボを通して獲得することができます。このコースは、RHCJA認定試験（EX248）の準備にも役立ちます。

目的

JBoss Enterprise Application Platform 6のスタンドアロンおよびドメインモードの両方におけるデプロイや設定の方法、ならびにEAP6インスタンスを設定するためのWeb管理コンソールとコマンドラインインターフェース（CLI）の使用方法を学習します。

アウトライン

1. JBoss Enterprise Application Platform の概要

JBoss Enterprise Application

Platform 6の概念と用語の学習および、JBoss Enterprise Application Platform インスタンスのインストールと実行

2. スタンドアロンモードでの JBoss Enterprise Application Platform

の設定

スタンドアロンモードのディレクトリ構造と standalone.xml 設定ファイルについての理解および、スタンドアロンサーバーにアプリケーションをデプロイ

3. ドメインモードでの JBoss Enterprise Application Platform の設定

複数のホストコントローラーを管理するドメインコントローラーなどを含む、ドメインの設定。ドメインへのアプリケーションのデプロイ

4. サーバーの設定

ホスト上にサーバーグループを定義し、サーバーグループへのサーバーの追加およびアプリケーションのデプロイ

5. CLI ツールの使用

コマンドラインインターフェースツールを使用した、管理タスクのスクリプトの作成

6. データソースサブシステム

データベース接続プールおよびデータソースサブシステムの設定。Java?

Database Connectivity (JDBC)

ドライバーをデプロイしたデータソースの定義

7. ログサブシステム

組み込みハンドラとロガーの設定、およびログサブシステムの設定

8. メッセージングサブシステム

接続ファクトリや宛先 (トピックとキュー) の定義および設定、ならびに JMS と HornetQ についての理解

9. セキュリティサブシステム

管理インターフェース、アプリケーション、および JMS の宛先のセキュリティ保護および、LDAPとデータベースセキュリティレルムの定義

10. JVM の設定

スタンドアロンモードとドメインモードのJVMの設定

11. JBoss Enterprise Application Platform 6

へのアプリケーションの移行

クラスパスとモジュールの依存関係、JPA

の問題、セキュリティ設定の更新など、EAP6

へのアプリケーションの移行方法を理解

12. Web サブシステム

HTTP および HTTPS コネクタ、SSL 接続、AJP コネクタの設定

13. クラスタリングの概要

スタンドアロンモードとドメインモードでの、EAP6 のクラスタの設定

